短期予報解説資料　２０２４年１２月２７日０３時４０分発表

気象庁

１．実況上の着目点

① サハリン付近の 500hPa 5100m 以下には−36℃以下の寒気を伴った寒冷渦があって東進。寒冷渦直下のオホーツク海には低気圧があって前線が日本の東にのびる。北〜東日本の日本海側では、寒気の影響により、3 時間 5〜10cm 程度の降雪が観測されている。

② 日本海では寒気移流が強まっており、朝鮮半島からの西風と沿海州からの北西風が収束して日本海寒帯気団集束帯(JPCZ)が形成され、北陸地方を指向している。北陸地方の沿岸部では、1 時間 10mm 程度の雨量を解析し、雷を多数検知。

主要じょう乱解説図

③ モンゴルの 500hPa 5400m 付近には、寒冷渦を回る−36℃以下の寒気を伴ったトラフがあって南東進。

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① １項①の寒冷渦は、27 日はオホーツク海をゆっくりと東進し、29 日にかけてカムチャツカの東に進む。1 項①の低気圧は、27 日夜にかけてオホーツク海を南東進して不明瞭化。代わって 27 日朝までに閉塞点上に発生した低気圧が、28 日にかけて発達しながら千島の東に進む。また、日本の東の前線を伴った低気圧が発達しながら北東に進み、29 日にかけてカムチャツカの東に進む。このため 29 日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置となり、寒気移流が強まって 28 日は、500hPa −30℃以下、850hPa −9℃以下の寒気が西日本まで南下し、大雪となる所がある。また、JPCZ が停滞して北陸地方を指向する状況が続く。JPCZ 周辺の対流雲が断続的に流れ込み、27 日は沿岸部は雨主体で、気温が低い山地や内陸では雪主体となるが、28 日にかけて次第に沿岸部でも雪主体の降水に変わる。西日本では 28 日にかけて、北〜東日本は 29 日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、東日本の日本海側を中心に 29 日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、全国的に 29 日にかけて、気圧の傾きが大きくなるため、強い風が吹いて、波が高くなりしけとなる所がある。北日本では 27 日は、暴風や暴風雪に警戒し、全国的に 29 日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

② １項③のトラフは、28 日朝にかけて西日本に進む。西日本では、上空寒気やトラフ前面の上昇流の影響により、27 日夜〜28 日朝にかけて局地的に対流雲が強化される可能性がある。地上気温が低くなる夜間〜早朝では山地や内陸を中心に雪が降りやすく、積雪となる所がある。西日本は 27 日夜〜28 日にかけて降雪の強まりに留意。西日本では 28 日は、落雷や突風、降ひょうに注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場は GSM を基本、量予想や降水分布は MSM や LFM も参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量(06 時からの 24 時間)：多い所(100mm 以上)はない。② 降雪量(06 時からの 24 時間)：北陸 70、東北 60、関東甲信 50、東海・近畿 40、北海道・中国 30 cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北 5、伊豆諸島・北陸・近畿・中国・沖縄 4、その他広い範囲で 3m。④ 高潮(明日まで)：北海道地方では、注意報基準を超過する所がある。

５．全般気象情報発表の有無　「大雪に関する全般気象情報」を 5 時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。